

保健管理センター ニュースレター

2024年秋号

やけどは日常生活において多いけがの一つです。これからの季節に行われる学園祭でも例年、調理によるやけどが多いです。
すぐに冷やさないで進行するため、やけどをしたらそのまま放置せず、すぐに応急処置を行ってください。

やけど（熱傷）について

やけどは熱いお湯や油、炎や調理器具、ヘアアイロンなど高温のものに触れることで生じます。また、これらの高温のものだけではなく、湯たんぽ・カイロなど44℃～50℃程度の低温のものに長時間接触していたことによっておこる低温やけどもあります。

やけどはその深さによってⅠ度熱傷からⅢ度熱傷に分類されます。

Ⅰ度 皮膚の色が赤くなり、ひりひりする。

Ⅱ度 腫れぼったく赤くなり、水ぶくれになり、痛みが強い。

Ⅲ度 皮膚が黒く焦げていたり、蒼白になり、感覚がなくなる。

応急処置について

1 すぐに冷やす

- ・ **水道水の流水で約15～30分冷やす**（やけどの進行を止め、痛みを和らげる）。
- ・ 顔など流水で冷やしにくい部位は水で濡らしたタオルなどで冷やす。
- ・ やけどの部位が衣類で覆われている場合は、無理に脱がさずそのままの状態冷やす。
- ・ やけどの部位がはれてくるので、指輪や時計などの装身具は早めに外して冷やす。

2 清潔に保つ

- ・ 水疱には、やけどのきず口を保護する役割があるため、清潔な布（ガーゼ等）で保護し破らないように気を付ける。

3 早めに病院を受診する

- ・ 自己判断せず、冷やししながら出来るだけ早く医療機関で診察を受ける。

